【静岡サレジオ幼稚園】

スタッフ①：
今年もおつきあいいただきありがとうございました。園児さんたちも 3 年目で、スタッフからもやはり大分違うねという声が聞かれました。

先生❶：
子どもたちも過去に 2 回行っていて知っている場所なので積極的です。

スタッフ①：
そうですね、そんな感じでした。

先生❶：
散策するのも 3 年目というだけあって、積極的な姿があったという話をしていました。

スタッフ①：
私たちもこんなに覚えていてくれるとは思わなかったです。時間も決められているので、あそこを通って、こう行って、また帰るというような、一応ルートなどを決めて下見をしているのですが、園児さんたちが知っているから、「もっとあっち行こうよ」と言ってくれて、予想外の展開が生まれました。

先生❷：うちのグループにも、習い事で山遊びに行っている子たちもいました。

スタッフ①：やはりそうですか。

先生❷：
そういう子たちも含めてですが、他の子たちも、やはり去年のことを覚えているのか、「もっとあの山の上の方に行きたい」と言ったり、自分たちで、「ここで手紙書けるんだよ」と逆に私たちが教えてもらったりということもありました。最後はもっと遊びたかったと帰ってくる姿を見て、すごく意欲的に活動できていたのかなと思いました。あとは、「これは何？」と聞く姿がすごく多くて、積極的に質問して疑問を声に出していることがたくさんあって、それも意欲に繋がっていました。そういうこともやはり 3 年目ならではないかと思いました。

先生❶：
私が入ったグループでは、お母さんもすごく楽しんでいました。下に弟や妹がいる子どもだったので、お家でも家族を連れてみんなで来たいと言っていました。もちろん子どもたちはすごく楽しんでいたのですが、お母さんたちもこういう場所があるのだなと言っていました。
子どもたちも木の枝を鉛筆にして、葉っぱで手紙を書くところで、そんなに書くのかと思うぐらい、たくさん手紙書いていました。木のポストに溜まっているお手紙を見ながら、「これ、誰が持ってってくれるんだろうね」「郵便屋さんかな」と話をしていたのですが、ある子が「こんなにいっぱい葉っぱのお手紙たまってるから、誰も持っていってないよ」という話になりました。でも「絶対誰か届けてくれる」って、そこから「じゃあ森の妖精が届けてくれてるんだよ」という会話に繋がって、その会話からも「ここには森の妖精がいる」「こんなに楽しいところだから妖精いるよ」と女の子たちが話していて、子どもたちが心いっぱ

いに感じている楽しさが、妖精っていう表現で会話になっていったのだなということを感じるぐらい、すごく楽しんでいました。幼稚園の広い園庭とはまた違った自然の関わりがあって、広い敷地でのびのびと遊べるあの子どもたちの顔は、幼稚園では見られない新しい顔でした。

スタッフ①：そうですか。

先生❶：
あっちもこっちも、「あれなんだろう」と興味が広がっている環境でした。私たちのグループも「もう終わりなの？」と言って、時間が足りないぐらいすごく楽しんでいました。

スタッフ①：
それは嬉しいです。スタッフの振り返りでも、やはり 3 年目だと違うねと言っていました。ひとつは面白いものや楽しいものを見つけるのがすごく上手でした。それは 3 年目っていうこともあるし、普段からそういうご指導をされているのでしょう。見つけるのが上手ということと、自分で遊びを考え出して遊べていました。例えば、どんぐりを見つけて転がしてみるとか、葉っぱでガサガサ音を出してみるとか、シャワーをやってみるとかというのも、多分知っているのですね。そういう遊びをされているのではないですか。

先生❶：
敷地内にサレジオの森というのがあって、どんぐりが落ちていたり、落ち葉がたくさんあったりという環境があるので。やはりああいうところに行くと、こちらではできない、そんなに広くはないけど、ダイナミックな遊びというか、姿は見られます。

先生❷：
また、縦割りのワークタイムという日があります。この前は秋のものをテーマにして、秋探しといって、葉っぱの中にどんぐりなどの宝物を探していました。

スタッフ①：そうなのですか。

先生❷：
探す遊びのコーナーがあり、どんぐり転がしで、先生たちで竹を長くつながるように組み合わせて転がるものを作ったりしました。今の話を聞きながら少し思い出したのですが、そういう経験も繋がっているのかなと思います。

スタッフ①：面白そうですね。それは、遊木の森に行く前ですか。

先生❶：行く前です。たまたまです。

スタッフ①：
それはあるのかもしれないですね。すぐどんぐり見つけた子が 2 人ぐらいいたので、びっくりしましたが、そういうことですね。

先生❶：どんぐりは大好きです。

先生❷：どんぐりは大好きです。私たちより見つけるのは上手です。

スタッフ①：

そうなのですね。見つけるのが上手ということの他にすごく色々出てきたのです。自分たちで道を選んでどんどん行けるということ、例えば、どんぐりを見つけた時に、「どんぐりだ」ではなくて「コロコロしてる」とか「すべすべしてる」という言葉がたくさん出てくることがすごいと言っていました。「ふわふわしてる」もです。遊木の森の木道みたいなものがあって踏むとふわふわするのです。あれを、むしって持ってきて、「これはふわふわだよ」とか「これ触ってみてよ」と言うのです。そういう姿を見て、五感を使って何かやるという好奇心が育っている子たちだなということをすごく感じました。

先生❷:
五感についてです。先ほど少しお話ししたのですが、私のグループは食べられる葉を最初に教えてもらったのですが、みんな葉っぱにすごく注目して、1 つずつ「これは食べられる」とか「これはどんな味」と言って、そこからあまり動きませんでした。他の幼稚園は事前に保護者に言っていたら、食べる経験もできると言っていましたが、もうみんなが食べたくなってしまいました。私や保護者は食べられたので、ちょっと食べている様子をこうやって、「どんな感じ？」とすごく見ていました。私もびっくりしたのですが、実際にスイバを食べてみたら、最初は普通の葉っぱの味がして、だけど、噛んでいると酸っぱくなりました。

スタッフ①:そこまで美味しくはないですよね。

先生❷:でも、その時は美味しいなと思いました。

スタッフ①:ほんとうですか。

先生❷:普通に食べて噛んでいると最後が酸っぱいことが不思議だなと思ったのです。

スタッフ①:先生もすごい好奇心をお持ちですね。

先生❷:
「これも食べて」と色々渡してくるのです。これも食べられる葉っぱなのか、「まずスタッフの先生に聞いてきて」と言いました。結局 3 種類くらいあったのです。1 個は本当にサラダで出てくるような味のするものでした。それも美味しかったのですが、もう 1 個は苦かったのです。子どもたちは集めながら、これは食べられるものだと種類が見分けられるようになっていました。ほんとうに食べていたらまた違ったなと思いました。そのあとも落ちていたもので食べられる実を教えてもらいました。

スタッフ①:赤いものですね。

先生❷:
私は食べなかったのですが、赤い実で中の粉みたいなオレンジのもので甘くて、梅干しみたいな種が中にあると言ってました。それがトイレの近くの道端に落ちていたのです。それも面白いなと思いました。踏まれていそうだったから綺麗なものを拾ったらって言ったら、それがいいかわからないですが、みんなで落とそうとして木を蹴り始めたのです。

スタッフ①:考えましたね。

先生❷:
全然落ちてこないよと言っていました。そしたら音がしたのか、そこから木の枝で木をち

ょっと叩いて、音の違いなども楽しんでいました。色々な木を持ってきたりして、たたく音が違うねと言っていました。

先生❶:
私たちのグループも、葉っぱで手紙書くところで木の枝を拾ったその時に、じゃあここも叩いてごらんということになりました。さっきまで鉛筆で使っていた木の枝を、今度は太鼓叩くバチみたいな感じの役割で、こうやって色々な枝を叩いていました、やっぱり音が違う、これはどっしりしている木だから怖い音がするなど、その木の特徴と実際に聞いた音と結びつけて表現している姿がありました。自然の中で五感を使うこと、見たり食べたりすることもそうですが、五感もそうやって耳をすませて周りの音を聞くだけでなくて、実際に自分がやってみて聞くという、音の聞き方が面白いです。

スタッフ①:ほんとうですね。

先生❶:私たちの幼稚園での取り組みに繋がるのですが。

スタッフ①:ぜひお願いします。

先生❶:
ハリガネムシを渡してくださったのですが、カマキリのおなかにハリガネムシがいて、「わあっ」となっていましたが、隣のクラスの男の子が、遊木の森で捕まえたカマキリを大事に育てようねと言いました。

スタッフ①:持って帰ってきたのですか。

先生❶:
そうです。1 匹だったかと思います。それをうちのクラスに持ってきました。そうしたら、みんながカマキリやバッタを見るとハリガネムシいるのではないか、どんなものかと、まずそこに食いついてしまいました。実際にお尻をこうやってちょんと水につけて、出てくるかどうかずっと見たのですが、出てこなかったのです。

先生❷:
前のやつは出てきたのです。幼稚園にいたものは出てきて、部屋で飼っているというか、部屋にずっといるのです。

先生❶:飼っているのです。

スタッフ①:すごいです。

先生❷:
出てきていて、そこで盛り上がっていたのですが、遊木の森のものは出なかったのです。

先生❶:
出てきませんでした。そうしたら子どもたちが、「なんで同じカマキリなのに出てこないの」と言いました。たまたま寄生していなかっただけなのですが、「なんでなんで」という会話になりました。その前の段階で、幼稚園の中でカマキリのハリガネムシに触れた時にハリガネムシの生態系を調べたことが、遊木の森で捕まえたカマキリに繋がってきました。なぜいなかったかと子どもたちと考えた時に、「遊木の森でお水を見なかった」と言った

のです。ハリガネムシは水で生きる生き物だから、お水がない遊木の森でのカマキリにはハリガネムシは寄生していないのではないかと言っていました。

スタッフ①：なるほど。すごくよく見て考えていますね。

先生❶：
遊木の森で色々体験させていただいたあの環境を、幼稚園で子どもたちがフルに思い出して、たどり着いたのがそこだったのですごいなと思いました。

スタッフ①：すごいですね。

先生❶：
そういう子どもたちの姿を見ていると、私たちもどこで得た知識が繋がってくるかわからないので、やはり実体験が一番すっと子どもの中に入っていくと思います。実際に体験したことを、どれだけ生かしていけるのかというところです。

スタッフ①：そうですよね。

先生❶：年長でそこまで考えるのだな、子どもの力はすごいなと思います。

スタッフ①：ほんとうですね。お子さんたちが生き物ってなんなのだろうと話していたのです。

先生❶：
そう生き物です。今年、私たちは色々と野菜を育てたり、登呂遺跡にお米を植えたり、食育に関することを色々やっていました。生き物とは、虫とか動物とかそういうくくりではなくて、そこも含めてもっと広い視野で見て、植物なども入れていきたいなと思いました。

先生❷：面白かったですよね。

先生❶：面白いです。

先生❷：
図書館でハリガネムシが載っているものを探さなくてはと思って探して、この人どう思われているかなと思いながら、すごい題名の本を借りてきました。

先生❶：寄生虫みたいな、ハリガネムシに興味あるのって思われてしまいますね。

先生❷：
ごめんなさい、全然関係ない話ですが、うちのクラスで鰹節が出たのです。おかかをかけたら、お好み焼きの上とかで動くでしょう。だから生き物じゃないかと言って、生き物かどうか、おかかはなんなのかというのを調べました。

スタッフ①：面白いです。

先生❶：
でも結局、おかかは単体で見ると生きてはいないけど、元をたどってみると、生き物からできているものだから、そこにうまく繋げていきました。

先生❷:
鰹節だから、元々は生きている魚だったよ、だけどみんなのところに来るおかかになる時は食べ物だから生き物じゃないねという結論に最終的に至ったのです。
でも、そもそもおかかがなんなのかは知らないのです。みんな魚だって知らないのです。

スタッフ①:そうですね。

先生❷:だから作り方を学びました。

スタッフ①:すごい。

先生❷:いぶすという言葉も知りました。

先生❶:ポップコーンの爆裂種もです。

先生❷:
とうもろこしを育てていて、夏休みでもう収穫になったのでどうするかと言ったら、みんなはポップコーンにしたいと言ったのです。だから、ポップコーンにしようと思って乾燥させておいたのです。私も後から知ったのですが、スイートコーンは食べる用なので違うそうです。ポップコーンにはならないのです。

スタッフ①:違いますね。

先生❷:
それでも子どもたちが自分の家で調べることを１回やってみたのです。もちろん失敗しました。みんながもうワクワクして「食べる食べる」と思いながらやったら、「あれ、できなかった」となりました。

スタッフ①:ポップコーンにならないのですね。

先生❷:家に持ち帰って、宿題でみんなが調べてきました。

スタッフ①:凄いですね。

先生❷:
そうしたら、爆裂種というのがでたので、また絵本を探して、みんなでもう１回読みました。爆裂種なのだということを知ったので、この前スーパーで買ってきた正解のものをやりました。

先生❶:爆裂種ってすごいですね。

スタッフ①:種が違うということにたどり着いたとはすごいですね。

先生❶:
うちのクラスも、色々調べていく中で、ハリガネムシを元に、ハリガネムシが生きるのはカマキリのお腹の中ということは、ハリガネムシが生きていくためには、昆虫、虫が生きてないといけないと知りました。虫は葉っぱとか木とか、そういうものがないと生きていけな

いということになると、花も木も大事だよねというところになります。そうしたら、ある子から、「じゃあ自然ってすごく大事だよね」という言葉が出てきたのです。そこまでは自然という言葉が出てくるとは思いませんでした。

スタッフ①：すごいですね。

先生❶：
この子達は 3 年目というのもあるのですが、やはり遊木の森に行かせていただいて色々なものに関わって、そういう経験をしているから自然というワードが出てくるのです。

スタッフ①：そうですね。

先生❷：ザ自然といいますか。

先生❶：ほんとうですね。

先生❷：
あれだけの「ザ自然」という環境はなかなか行けるところではないので、ほんとうに貴重な経験です。鬼ごっこもすごく楽しそうだったし。
この子たちは年少の時雨だったのです。

先生❶：言っていましたよね。

先生❷：初めての園外で雨だったのです。

先生❶：写真を見返したらカッパを着ていました。

スタッフ①：よく来てくれたなと思いました。

先生❷：だからすごいです。うちのグループは、芝生に寝っ転がったりしていました。

スタッフ①：していましたね。

先生❷：すごく気持ちいいねとなって、うれしかったです。

スタッフ①：あれもできる子ばかりではないですよね。

先生❷：
横になることですよね。最初はみんな戸惑っていたのです。その前に近くで毛虫を発見したので、毛虫がいるかもしれない、だから嫌だって言ったのです。でもこの辺はいないよと言って、私ともう 1 人の子がやったら、みんなが横になりました。

スタッフ①：
やはり先生が先頭を切ってやってくれるのは大事ですね。お二人ともそんな感じです。

先生❷：私たちが楽しかったです。

先生❶：楽しかったです。

先生❶:
1 個のグループは下の道を行き、もう 1 個のグループは上の道を行き、私は「チャンスだ、両方見られる」と思って上に登ったけど、どこから降りるかわからなくなってしまいました。

先生❷:子どもはすごいところを降りていったりしました。

先生❶:そうなのですね。

先生❷:私はこっちから行くけど、というような感じでした。

先生❶:すごいです。

先生❷:挑戦していましたよね。

スタッフ①:
エコエデュでも今、探究という言葉を大事にしていていて、同じだと思いました。小学生なのですが。

先生❶:そうですよね。

スタッフ①:
色々なはてなを自分で見つけて、こうなのではないかと仮説を立ててやってみて、考えてみて、また次のはてなに繋げる思考訓練のようなものをやっています。サレジオさんもやってみてということを大切にされているなと思いました。

先生❷:私たちも探究は大元になりますね。

スタッフ①:やはりそうですか。

先生❷:
そうですね、「探究できる人」が目指す姿にもなっていて、探究の時間があります。

スタッフ①:それは年長さんだからですか。

先生❷:年少からです。

スタッフ①:すごいです。やはり意識してやっているから、年長の今があるのですね。

先生❷:
先ほど「ふわふわ」などの表現があったのですが、うちのグループではキノコを見つけたのです。「キノコあるよ」と言ってそっちに行ったら、「きのこの朝礼順だ、ほんとだ、朝礼順だ」と盛り上がっていました。みんなで朝礼順といって背の順に並ぶのです。よくその表現ができたなと思いました。これを見て、確かに綺麗に並んでいるように見えたという表現力があります。

スタッフ①：そうですね、すごいですね。

先生❷：
自分たちの生活と結びつけて考えているところもすごいなと思います。この子たちならではだなと思いました。私はこれを見て、朝礼順なんて多分思いつくことはないだろうなと思ったので、すごいなと思いました。

先生❶：
やはりこういう経験をしている中での子どもたちの発言を聞いていくと、色々な表現の仕方があるんだなと思います。でもやはりその表現は、子どもたちが今までにどれだけの経験をしてきたか、そこで表現の幅が変わってきます。

スタッフ①：
そうですね。先生方も意識されてお子さんたちの表現や探究を広げていらっしゃいますね。

先生❶：思ったよりも大変ですね。

先生❷：
子どもから出たその発言を拾うことによって、その子たちの意欲が出るのです。自分たちが考えたことややりたかったことを、軌道修正して繋げるかもしれないですが、スタートはそこからです。やっていくと私たちもなんだかんだ言って楽しいのです。子どもたちもやりたいという意欲が出てくるので、やりやすくなるのかなと思います。そこから変な方にいってしまう時もありますが。

スタッフ①：そうですよね。

先生❶：
大体の流れはあらかじめ考えますが、やはり子どもたちと作っている時間だなということは感じます。

スタッフ①：それも１日１日、そんな感じですか。

先生❶：
最終的にこういう姿があったらいいなというところを決めていて、私たちが評価できるのは、その姿は見られて、こういう発言が見られたらということです。

先生❷：多分、2，3 か月で最後に持っていくのです。

先生❶：それまでの間に、今日はこういう内容でやっていくと決めます。

先生❷：例えば、こういう遠足が間に入ってくると、それもうまく繋げていきます。

先生❶：
本当に今回行かせていただけたのは、私たちがやっている生き物の探究と、すごくいいタイミングで行けたなということは感じました。

スタッフ①：うれしいです。最終的に目指す姿というのをお伺いしてもいいですか。

先生❶:
春夏秋冬、適した環境で生きているという、内容的な部分では最終的にはそういうところを子どもたちと一緒に探究していきたいです。それをやっていく中で、自分が知ったことを誰かに伝えることができるようにしたいです。私たちのクラスはハリガネムシと木や花が出たけれども、隣のクラスでは爆裂種が出ていました。

スタッフ①:面白いですね。

先生❶:
全然違うジャンルの内容である鰹節が出ているので、それをどうやって周りの知らない人に伝えていくかということです。そういうところまで、応用がききます。この知識を子どもたちが得られるようにします。ユニットといって、そういう探究の中では最終的には、生物の生態系のようなところなのです。それとはまた別に小学校に行くと発表があったりしますから、そういう時にこの子たちが知らなかった人に伝えていくことができればと思います。出てきた意見も何か違いました。どうやって知らない人に伝えるのかと聞いたら、うちのクラスでは、「新聞を作る、発表する」などと言いました。

先生❷:
発表の仕方というのをそこで少し学びます。こうやって最初は言うのです、みんな紙を、でも、これではみんな見えないよねとなります。ではどうやったらいいのか、こう貼ってこうやって言うとか、そういうことから少し伝えて、知らない人に教えるにはどうしたらいいのかと言うと、絵でかく子もいれば、文字で書く子もいて、新聞作りが始まるところもあります。そういう体験や学びが繋がったなと思います。

スタッフ①:すごいです。年長さんはそこまでできるのですね。

先生❷:そうですね。内容は「ああっ」ということはありますが、綺麗に言えばそうなります。

先生❶:そういうところを目指して私たちはやっています。

スタッフ①:その中で、遊木の森に来ていただいた 1 回は、役に立ちましたか。

先生❶:役立てていました。

スタッフ①:
スタッフも、先生方から生態系のお話などを伺ってのぞんでいたので、何を子どもたちに気づいてもらおうかと結構意気込んでいました。きちんと伝えられたかなと気にしているスタッフもいました。

先生❶:そういえば、虫に刺されました。

スタッフ①:サシガメでしょうか。

先生❷:あの木についていた虫ですか？見ました。

先生❶:
ああいう生き物の特徴などは私たちも説明はできないし、ここでないと多分見られなか

ったです。刺されたら痒いのでしょうか。蚊のような感じでしたか。

スタッフ①：少し痛いと聞きました。私もかまれたことはないのですが。

先生❶：
「蚊みたいな感じみたいだけど、蚊じゃない」と子どもたちが必死に説明しているのですが、私にはなんのことかわかりませんでした。蚊みたいだけど、蚊じゃないみたい、という生き物の特徴です。この子たちも生き物が好きなのです。私はこの子たちにそこまで落とし込めなかったですが、また違うところで、サシガメについてもそこを追求できればいいと思います。

スタッフ①：刺されるとは貴重な体験をしましたね。

先生❶：刺されると血が出るようです。

スタッフ①：スタッフが心配していました。

先生❶：「大丈夫ですか」とお電話をくださったみたいです。メールでしょうか。

スタッフ①：大丈夫で、その後スイミングに行ったということでした。

先生❶：
そうです。お手伝いで来てくれていたお母さんです。「あ、そうだったんですね。もうスイミングやってます。多分大丈夫です」と言われました。

スタッフ①：そんな感じですか、よかったです。

先生❷：
帰ってきて、少し時間があったので、うちのクラスでは、見せたい子は発表してと言いました。別にみんなと言わなかったのですが、そうしたらみんなが袋を持ってきました。もう「はいはいはい」というような感じでした。はいっていうのもちょっと練習しているのです。みんなが「わーわー」言うではないですか。静かに、「はい」ってしたら、そのまま待っているということをして。その子にだけさしてもらえるのです。こっちで前にやってと言って、すごく時間がかかってしまうなと思ったので、宝物の中で 1 番見せたいものを 1 つ選んでと言ったのですが、時間がかかりました。こうやって選んで、それで結局、時間がかかってしまったのです。やはり子ども達にとっては、5 個取ろうが、6 個取ろうが、そのどれも 1 番なのだろうと思います。だから、選んで 1 個に決めるのは大変だったのは、多分それほど大切なものだったのだろうと思います。
そこで 2 人ぐらいで切り上げて、隣の子と見せ合ってと言ったのです。他のグループは「教えたい、教えたい」、「先生これ取れたよ」とか「どこにあったの」と言ったら、「そこにあったんだよ」と教えてくれました。あの表情というか声が聞けたのは、本当に楽しく充実していたからなのだろうと思いました。

スタッフ①：嬉しいですね。そのあと袋に入れた宝物はどうされたのですか。

先生❷：お家に持って帰りました。

スタッフ①：持って帰りたいのですね。すごい、それも嬉しいですね。

先生❷:
その食べたがっていた子はお家で聞いてみたらいいよと言ったのです。でも、1 人の子が食べたと言っていました。お母さんはよく信じましたね。

先生❶:ほんとうですね。

先生❷:
だから、その子には「食べられる葉っぱだけ入れていきなさい」と言いました。何か違うものを入れてはお家でわからなくなります。1 人の子は食べて、美味しくなかったと言っていました。

先生❶:食べるとは…。

先生❷:
しかも少ししおれていたのではないかなと思うと、よくお母さんが許したなと思います。

スタッフ①:今は自然や生物の学びが、まだ続いている感じですか。

先生❷:
一応、終わったのですが、今でもその流れは日々あります。私たちの目指すことは一応終わったことになっています。

スタッフ①:遊木の森に行って、終わった感じですか。

先生❷:そうです。

先生❶:評価物というか、ここまでやったという記録として残します。

スタッフ①:そんな記録があるのですね。

先生❶:
記録として残す期間は終わったのですが、でも、やはり日々の遊びの中で、生き物、自然との関わりは常にあります。

スタッフ①:
引き続きお散歩などをされますか。もう卒園かと思いますが、その後のお話をまたお伺いできたらうれしいです。ありがとうございました。

先生❶❷:ありがとうございました。